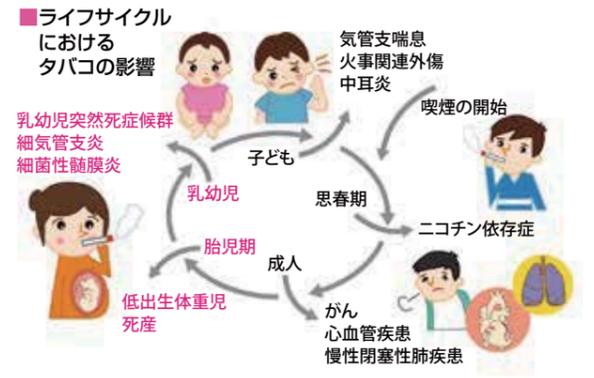


子どもへの喫煙の影響
 妊娠中のお母さんの喫煙が胎児・新生児にどのように影響するかとか、生まれた後のお子さんへの喫煙の影響（他人の吸ったタバコ煙の影響＝受動喫煙）について解説をお願いされました。しかし考えてみると、エコチル調査に参加されるようなお母さん、お父さんは、子どもを取り巻く環境について、誰よりも関心があり、お子さん達が良い環境で育っていくことを願っているはずですから、タバコによる健康障害をあれこれ並べても、釈迦に説法ではないかと思われま。一般的な健康被害については、下図を参考にして下さい。

しかし、そのように子ども達のことを真剣に考える大人がいる一方で、今の日本社会ではタバコの害に対する意識はまだ低く、タバコを規制しようという動きも鈍いようです。たとえば、テレビドラマでは人気上昇中の俳優が、2時間番組で20分も喫煙シーンを見せたことが話題となりました。また、タバコ会社が主要ニュース番組のスポンサーになって、いわゆるマナー広告がどのテレビ局でも流され、路上喫煙禁止マークのそばにタバコの自動販売機があり、主要な鉄道駅ですら屋外に設置された灰皿周辺から悪臭が駅構内に流れ込んでいます。一時「国民の健康の観点から、タバコの消費を抑制するため、将来に向かって税率を引き上げていく必要がある、タバコ税を大幅

上げる」という大きな価値観の転換が見られたものの、その後は「タバコの売り上げによる収入の確保が大事」という方針に逆行しています。一方世界に目を転じますと、ニュージーランドやアイルランドは2025年までに、フィンランドは2040年までに tobacco-free country (タバコの無い国) を目指すとしています。皆さんはどちらの国で子育てをしたいでしょうか。言うまでもないことでしょう。

タバコによる健康障害の最新情報
 1964年1月11日は「タバコと健康」について、詳細な科学的根拠（エビデンス）を集めた最初の米国公衆衛生総監報告書が出された記念すべき日です。それから50年、誰もが反論できないようなエビデンスが積み重ねられ、今年(2014年)最新の報告書がだされ、その内容を一般向けにした解説書「次の世代をタバコと縁が無く育てよう」も、全文ダウンロード*1できるようにしています。その中からいくつか紹介すると、まず驚かされるのは3,000種類程度(新版 喫煙と健康、保健同人社、2002年)とされていたタバコ煙中の化学物質が、7,000種類以上とされていることです。化学物質の検査感度が上がっただけではなく、タバコ産業がニコチン依存を強めるために新たに様々な物質を添加しているとされています。その代表がメントールで、タバコの煙の不快感を和らげたり、爽快感をますことで、若者や女性が喫煙しやすくしているだけでなく、最近の研究ではメントールそのものが依存性を高める働きがあるとされています。そのため、米国では若者に対するメントール入りタバコ販売を禁止しようとしています。日本ではどうでしょう。首都圏などの主要駅では、メントール入りタバコの巨大な広



*1 <http://www.surgeongeneral.gov/library/reports/50-years-of-progress/consumer-guide.pdf>

このコラムでは、環境や健康に関する話題を専門家が分かりやすく解説します。

告が目飛び込んでくるのが現実です。米国のデータでは、受動喫煙で毎年41,000人以上が「殺されている」と書かれています。日本では国立がん研究センターの試算で、受動喫煙による肺がんと虚血性心疾患の死亡数が年間約6,800人とされていますが、これ以外に消化器のがんなどタバコが関係するすべての死亡を入れると、この数字はずっと大きなものになります。同じく米国のデータですが、両親の喫煙による胎児から乳幼児までの健康障害として、乳幼児突然死症候群、未熟児、低出生体重児やその他の妊娠中のトラブルのために、過去50年間に10万人以上の赤ちゃんが亡くなったとされています。特にお母さん自身の喫煙が、子宮外妊娠や流産、早産の明らかリスクとなるからです。また、口唇口蓋裂を増加させますし、胎児期の肺や脳のダメージが青年期まで持続することも明らかとなっています。

タバコの無い社会へ
 今回の報告書で印象的なことは、章の見出しを「がんを引き起こす」「息の根を止める」「心臓を止める」として、より直接的に健康障害を表現していることです。黙っているのは子ども達に良い環境は与えられません。皆さん一人一人の周りから、タバコを追放するよう努力する必要があります。その先に脱タバコ社会が見えてきます。皆さん、タバコの無い社会で子育てをしませんか？

■著者プロフィール
 独立行政法人 国立成育医療研究センター 研究所マスキングスクリーニング研究室室長 病院総合診療部禁煙外来担当（併任）
原田 正平

1980年北海道大学医学部卒業。その後、北海道内で小児科医として研修し、道立衛生研究所などを経て、2004年8月に現在の施設に異動。2006年5月より禁煙外来担当、2013年11月より現職。専門は小児内分泌学、甲状腺学、医療政策（タバコ規制）など。

バックナンバーのお知らせ
 今号で7号となりましたエコチルだよりですが、環境省HP (<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>) エコチル調査「参加者のひろば」にて、バックナンバーやインタビューの詳細が閲覧できます。ぜひご覧ください。

編集後記
 エコチル調査では3年間のリクルート期間が終了し、また新たな調査が始まります。お子さんが13歳になるまで、まだまだ先の長い調査となりますが、この「エコチルだより」を通じて、少しでもみなさまのお役に立てるよう、楽しんでいただけるよう、一層の努力をしていきたいと思います。末永くお付き合いいただき、お子さんの成長とともに「エコチルだより」の成長も見守っていただければ幸いです。(T.K)

お問合せ ☎ エコチル調査コールセンター
 0120-53-5252
 9:00 ~ 21:00(フリーダイヤル・年中無休)
 ■発行
子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査) コアセンター
 〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2
 独立行政法人国立環境研究所

Japan Eco&Child Study
 最新情報/詳細調査が始まります/質問調査票はなぜいつも分厚いの?
 ■健康コラム
タバコの無い社会で子育てをしませんか？
 あなたが たより
エコチルだより
 調査
 エコチル調査だよりは、[子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)]の研究成果や進捗状況を参加者のみなさまへお知らせする情報紙です。
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>
 vol.7

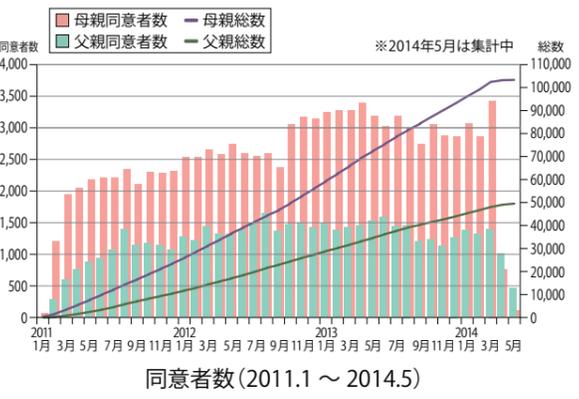
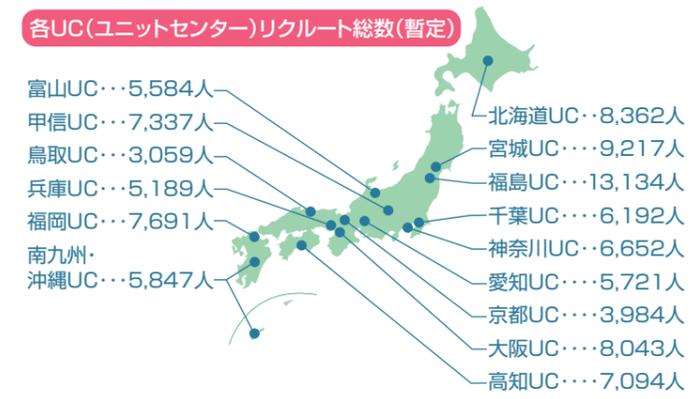
参加者(妊婦さん)登録10万人を超えました
 -参加者の声掛けは3月までで終了しました-

エコチル調査への参加者募集を開始したのは平成23年1月末でした。その直後に発生した東日本大地震によって宮城、福島、千葉などの調査地域も大きな打撃を受け、調査を中断せざるを得ない地区も出るなど、多難な船出をしたエコチル調査でした。福島県全域への拡大などの調査地区の追加を行い、最終的な目標数を106,700人として、平成26年3月末を期限に参加者募集を進めてきました。その結果、参加を登録いただいたお母さんは10万3千人に上りました。生まれたお子さんもすでに8万人を超えています。お母さんの登録が10万人を越え、順調な一歩を踏み出せたことは、参加者の皆様のご理解のたまものです。また、この調査の意義に賛同いただき、多大な協力をいただいき

た全国400を超える協力医療機関、調査実施機関の関係者に心から感謝いたします。さて、このように日本では例のない大規模出生コホート調査が動き出しましたが、お子さんの成長を本格的に追跡調査するのはこれからです。お子さんが13歳になるまで、参加していただいている皆様に継続して調査に協力いただけるかどうか、この調査の成否を握っております。また、これまでにお預かりした血液や母乳などの生体試料は、これからの分析を待って冷凍保存されていますが、環境省としては、コアセンター等関係機関と協力しつつ、こうした貴重な試料が計画通りに分析され、新たな科学的な知見を数多く生み出していただけるように引き続き努力してまいります。



エコチル調査は多くの方の参加と協力のもと、長期にわたって実施する国家的なプロジェクトです。エコチル調査で得られる成果により、次世代の子どもたちがより良い環境の中で健やかに成長できる未来となることを願います。参加いただいている皆様におかれましては、日本の中から選ばれた代表として、これからもエコチル調査を支えていただきますよう、よろしくお願いいたします。



最新情報 詳細調査が始まります



〈エコチル調査の参加者 10万人のうち 5000人を対象として詳細調査を行います〉

みなさまにご協力をいただいて実施しておりますエコチル調査では、10万人という規模の大きさにより、健康と環境の関係について調べられることがたくさんあります。しかし、半年ごとにみなさまに回答していただいている質問票の調査だけでは、医学的・専門的に調べた情報を得ることが難しいという問題があります。そのため、子どもたちの生活環境について実際に調査にうかがい化学物質などを測定したり、成長や発達の変化について医師などの専門家が検査をしたりする「詳細調査」を行います。エコチル調査の参加者全員に対してこのような詳しい調査をすることはできないため、詳細調査では、親権者が同意して下さるお子さん 5000人を対象といたします。

●詳細調査の内容とご協力をお願いすること

詳細調査は、以下の3つで構成されており、すべての調査についてご協力をお願いします。いずれもみなさまのご都合に合わせて日程をご相談させていただいたうえで実施します。



訪問調査

専門の調査員（2名程度）が1週間の間隔をおいて2回ご家庭を訪問します。所要時間は、1回目が1時間半、2回目は40分程度です。お子さんの居住環境や生活環境について、以下のものを調べます。ハウスダストなどの採取は調査員がいたしますので、みなさまには調査中の立ち合いや聞き取り調査へのご協力、また生活記録の記入をお願いします。

- ・お子さんの布団から採取したハウスダスト中のアレルギー物質
- ・ご家庭の掃除機から採取したダスト中の化学物質
- ・屋内と屋外で採取した空気中の粒子状物質や化学物質
- ・ご家庭の住宅環境や化学物質の使用状況
- ・お子さんの尿中の化学物質（医学的検査の4歳時に行う場合もあります）



医学的検査

検査を行う場所までお越しいただき、お子さんの健康状態や成長・発達の状態について検査をします。所要時間は1時間半程度です。身長・体重の計測のほか、医師による診察や血液検査を行います。

血液検査では、いろいろなアレルギー物質に対する抗体、身体の成長や新陳代謝に関係するホルモンやビタミンD、環境化学物質について調べます。



精神神経発達検査

検査を行う場所までお越しいただき、訓練を受けた検査者の面談による検査を行います。所要時間は1時間程度です。



●詳細調査のスケジュール

お子さんが13歳になるまで、決められた時期に訪問調査・医学的検査・精神神経発達検査を実施していきます。



〈詳細調査にご参加いただくまでの手続き〉

詳細調査では、お誕生日が2013年4月1日以降のお子さんの中から無作為に選ばれた方にお声がけをいたします。まず、ユニットセンターより詳細調査への参加のお願いとともに分かりやすいパンフレットや説明書などをお送りします。それから1週間程度後に、ユニットセンターよりお電話にてご連絡し、詳細調査についてご説明しますので、わからないことなどがありましたら、その時に質問ができます。詳細調査への参加について、お子さんの親権者が同意して下さる場合には、調査のための日程調整をさせていただきます。

詳細調査への参加をお願いするお手紙などをお送りするのは、2014年10月頃からなる予定です。もし、あなたに「詳細調査への参加のお願い」が届きましたら、ぜひ中身を一読いただき、参加を検討していただけますよう、お願いいたします。

●お子さんからの採血について

調査のためのお子さんからの採血については、苦痛やストレスをできるだけ小さくするため、通常の医療行為や予防接種の時とは違った環境を整えています。

採血をする場所には、お子さんが安心感を持てるような装飾などを施し、研修を受けた子どものケア担当者が採血終了までお子さんと付き添いの方のサポートをします。採血時は、希望する方は注射針による痛みを和らげるクリームやテープを使うこともできます。また、おもちゃや映像などお子さんの気をまぎらわすものを使ってストレスを軽減しながら行います。



教えて！エコチル調査！

質問調査票はなぜいつも分厚いの？



エコチル調査では、お子さんが生まれてから6ヶ月ごとに質問調査票回答のご協力をお願いしております。項目によっては、何度も同じような質問があったり、質問調査票の分厚さを見て、うんざりされてしまう方もいらっしゃるかと思います。エコチル調査の目的は「化学物質が子どもの成長にどのような影響を及ぼすかを調べること」ですが、血液や尿などを分析するだけではわからない「食事や生活習慣」など、化学物質以外にも影響が考えられる要素を、調べておく必要があります。これらは直接お聞きする以外に知る手立てがなく、影響がいつ頃から現れたかを正確に調べるためには、同じ質問を繰り返しおたずねさせていただく必要があります。お子さんの成長に合わせて、どのような時期・頻度で調査をするかは、質問調査票全体の設計図に沿って効率よく進めていきたいと考えていますが、3歳や6歳といった区切りのタイミングでは、どうしても質問の項目が増えてしまいます。

また、質問の中には、他の質問文と言葉遣いがそろっていなかったり、おや？と思うような日本語が出てくることがあると思います。その多くは、国内外ですでに使われている決まった質問文で、聞き方を変えることができないため、あえてそのまま使っています。子育てでお忙しい時期に分厚い質問票の記入をお願いするのは、大変心苦しくもあるのですが、参加者の方からは「こんな事ができるようになったんだ！」とお子さんの成長を振り返る良い機会になっているといった声もうかがっています。きちんとした研究の成果を出すためにも、今後も続けてご協力をお願いいたします。

エコチル調査三周年記念シンポジウム開催



平成26年1月31日（金）にエコチル調査の進捗状況等を発表するシンポジウムが東京丸の内・KITTE内JPタワーで開催されました。妊婦さんとパートナーの生活習慣、仕事や保育施設などに関する集計データの紹介や子どもの環境と健康に関する講演のほか、千葉県・福島県の調査参加者さんとメディカルサポートセンターの医師によるトークが行われました。



また、この日はステージイベントや工作コーナー、食物アレルギー&離乳食相談会など親子で楽しめる関連イベントも実施しました。トークショーでは、ママタレントとして人気の藤本美貴さんが自身の子育て体験談や子育ての悩みについて話してくれました。参加者の皆様へ「いろんな地域の赤ちゃん和妈妈・パパたちにエコチル調査に参加してもらうことで、これまで分からなかったことも解明されると思うので、参加している方に感謝しています」とのメッセージをいただきました。

なお、シンポジウムでの発表資料については、環境省エコチル調査ホームページ (<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>) で公開していますので、ご覧ください。



●エコチル調査のサポーターになりませんか

参加者のみなさまやご家族はもちろん、参加者以外の方でもこの調査の趣旨にご賛同いただける方は、下記のエコチル調査HPからサポーター（応援）にぜひご登録ください。環境省から調査の進捗状況や最新情報などをメールマガジンでお届けします。

（サポーターページでは、過去のメールマガジンを読むこともできます）

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>



モバイルサイト